

おわりに

コケ瓶は、適切な環境において、時々水を入れて乾燥しないように気を付ければ、とても長く楽しめます。

何年も育てたコケ瓶では、小さなビンの中で一つの生態系が完成しているといえるでしょう。中のコケが増えたり枯れたり再度生えてきたりという、比較的動きの少ない環境ではありますが、よく見ていると少しずつ変わっていく様子を見ることが出来ます。

広大な自然の一部を切り取ったような小さなコケ瓶を作り、飾って眺めることで、普段見過ごしている微小な世界に思いを馳せてみて下さい。

引用文献

熊澤 辰徳 2013. 身近なコケ植物——その分類と生態. ニッチェ・ライフ 12-11



図5 出来上がったコケ瓶。ヒノキゴケとホソバオキナゴケを使用しました。



書籍紹介

『趣味からはじめる昆虫学』

熊澤辰徳（編）、原有正、島田拓、吉富博之
オーム社 2016年6月25日発売 A4 168頁
ISBN 978-4-274-50583-6
定価：本体 2,600円＋税

「ご趣味は？」と聞かれて、私が「虫の研究です」というと、たいてい「？」という反応をされます。これは、虫以外であっても、例えば植物の研究や鉱物の研究などでも、同じことが言えるでしょう。つまり、研究活動が趣味になり得るということは、一般的にはあまり認識されていないようです。しかし、実際には、仕事としてではなく「在野」で虫の研究に取り組む方は多く、そうした方々が昆虫学の発展の一端を担ってきたのです。

この本は、虫の観察や採集、飼育、撮影を通して、新しい発見を世に出すための方法をまとめました。といっても学者向けというよりは、他に仕事や生活をしているながら、趣味として虫の研究に関わる方法を中心に取

り上げています。「研究」というと難しそうに聞こえますが、虫の採集や観察、撮影を楽しんでいる時に、気づかないうちに世界中の誰も知らない新発見をしていることもありえます。本書では、そうした発見を、貴重な発見だと気付くための方法、そしてそれを世界中に発信するための方法をまとめました。

虫に興味がある方にとっては、自分の関心を一歩進めるためのヒントをまとめた本として、そして興味のない方にとっては、「研究」を趣味にするということがどういうことかを描いた本として、本書を手にとっていただければ幸いです（熊澤辰徳）。

